

企業名： 伊藤忠商事株式会社

レポート名：統合レポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

「マーケットイン」「三方よし」といったキーワードがレポートの中で何度も登場し、これからの伊藤忠商事の戦略、目指す姿が伝わってきた。最初の CEO メッセージにおいて会社の代表自らが、方針について語っており今後目指していく姿が理解できた。また、「マーケットイン」の実際の例としてファミリーマート事業があげられていた。広告媒体事業や、金融事業などを複合的に運営しながらシナジー効果が期待できると感じた。

SDGs・サステナビリティへの取り組みについてレポートでたびたび取り上げられていた。伊藤忠商事の中長期的な運営において、持続可能な経済活動を志向していることが伝わってきた。実際に Drummond 社の一般炭権益を売却し一般炭権益から完全に撤退しており、目指すビジョンと行っている事業活動が一致していてメッセージに説得力を感じられた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

伊藤忠商事の競争優位性は川上から川下までのバリューチェーンを構築できる点、またこれまでのビジネスの知見を活かした取引先間でシナジー効果を生み出す点であることは分かった。しかしながらそれらは他の総合商社であればどこも当てはまることではないかと感じた。総合商社の中で独自の強みとなると非資源分野において一定の収益を挙げられている点であると思われるが、統合レポートのなかで非資源分野の強みという点での詳細な記述は見受けられなかった。伊藤忠商事のレポートにおいて総合商社のビジネスモデルの強みは理解できるものの、伊藤忠商事独自の強みはなかなか見えてこなかった。総合商社が行っているビジネスが似ているため仕方のないことかもしれないが、総合商社間での比較という視点での記述があればより説得力のあるレポートが作成できると感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

上述した川上から川下までの事業領域をカバーしているという点は今後も維持できるだろう。またそれに伴って、今後も各事業のシナジー効果を期待することができる。脱炭素社会に向けての事業拡大も行っており、ESG 等企業に対する視線が強まっている中で時代に合わせた経営を行っていると読み取れた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

人材の育成についての記述は少なかった。人材戦略について見開き 1 ページでまとめられていたが、待遇面の向上や経営的な観点からの記述のように思われた。統合レポートが投資

家向けのものであると考えれば自然なことではあるが、学生として就職先を探すという目線では人的資本価値の向上が見込めるかという点については統合レポートからはよみとることができなかった。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

まず総合商社間での比較というものがあれば伊藤忠商事についての理解をより深めることができると感じた。外から見るだけだと商社の事業内容の差を見つけることは難しく、何が強みになっているかわかりづらい。同業他社との比較という視点での記述が必要だと考える。

また人材の育成についての記述を増やしてもいいのではないかと考えた。総合商社は扱う商材が多種多様であり、各事業のシナジー効果を発揮するためにはクリエイティブな人材が今後ますます求められていくだろうと予測できる。優秀な人材を確保するために、待遇や研修制度などの内容を統合レポートに書き加えてもいいのではないかと考える。ただし統合レポートは投資家向けの情報であり、ここまで情報を取りに来る学生等も少ないと考えられる。そのためリクルーティングサイトとは情報の内容を変え、住み分けをする必要もあるだろう。